



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2022年07月19日 第1077号「週刊五十嵐レポート」

もうコロナ前には戻らない

7月17日付朝日新聞、「新規感染最多11万人」という記事。

新型コロナウイルスの国内感染者は16日、11万675人。今年2月5日の10万4163人が最多だったが、これを6500人上回り、第7波の急拡大はさらに続く可能性がある。ただ、重症者は114人、第5波の5%にとどまり、死者も20人で最多327人(2月22日)より大きく抑えられている。政府は、新たな行動制限を行うのではなく、社会経済活動をできる限り維持するという基本方針を決定。

つまりウィズコロナ。当面、行動制限はない。支援金等もない。完全な競争になった。飲食業は大手・中小を問わず、支援金等を受けて黒字決算。今まで赤字経営だったところも黒字になった。これからはちょっとコロナの感染が増えたからと言っても支援金等が出ないため、実力が試される。

もうコロナ前には戻らない。時は前に進んでいる。コロナが一時治まったときも若年層を含め戻ってきたが、ある層は戻ってこないということもあった。ある飲食店は土日の夜はコロナ前にもどっているが、平日の昼間はさっぱり。企業淘汰の足音が聞こえてくる。

小さな会社の経営原則の一つ。強いものを伸ばし、弱いものは捨てる。強いものは何か。他より優れているものは何か。顧客に支持されているものは何か。足を引っ張っているものは何か。小さな会社は選択と集中。前述の飲食店は平日昼間を止め、夜に集中することも選択肢の一つ。

円安、資源高でコストアップ。顧客が大企業・中堅企業の場合、資材高騰のため、逆に協力会社である中小企業にコストダウンを迫っている。できることとできないことを選別する力とできないことをきちんと伝えることも大切。

中国古典の「易経」では、すべてものは変わる(変易)。その変わり方には一定不変の法則がある(不易)。春→夏→秋→冬。決して冬→秋→夏→春にはならないと言われている。今の経済状況に関しても、すべてものは変わる。その変わり方には一定不変の法則があると考えれば、もうコロナ前に戻ることはない。新たな変化で自社の強みは何か問い続け、伸ばしていくしかない。

ちょっと
長くなる出来事

7月16日付日経新聞「読書欄」の「進化を超える進化」(ガイア・ヴィンス著)の書評(進化学者 三中信宏)より。人類の文化進化の特徴として4つのキーワードを上げている。「火」「言葉」「美」「時間」。

多くの生物は生息地の環境に適応しながら生きてきたのに対し、ヒトは地球上のあるゆる地域へと積極的に移動し、その分布地域を広げてきた。

生き続けるには、火を自由に操作して食生活を送る技能が有利に働いた。

祖先が得た知識や技法や様式を子孫が受け継ぐことにより、ヒトは個人ではなく社会的集団としての結びつきと相互協力を身につける。言葉はコミュニケーションの手段と同時に記憶術でもあった。

社会ごと共有される固有の美意識も社会規範として結束を強める機能になった。時間は歴史の流れを認識させる。経験や知見を繋ぎ合わせて時間的に並べることにより、体系化された知識として共有し伝承されてきた。

改めて、4つのキーワード、「火」「言葉」「美」「時間」。

「火」は今でいうと、文明の利器では。「美」はルール。技術革新がどんどん進歩すると、ルールもどんどん変わる。その中で我々は生きている。



一口メモ
知識

進退存亡を知る

それただ聖人か。進退存亡を知って、その正(せい)を失わざる者は、それただ聖人か。

人は隆盛を極めると必ず驕慢(きょうまん)になり、道を過(あやま)つ。栄枯盛衰を繰り返してきた史実を見ても、終わりまで全うする人は少なく、大多数が後悔を免れない。

進めば必ず退くげき時があり、存する者は亡びることが正しく弁(わきま)えるのは聖人だけだろうか。

進退存亡を知ることの難しさを戒めた言葉である。人間は、過去や歴史から学ばなくてはならない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

